

平成24年度学力向上に向けた取組

函館市立亀田小学校 学級数 17

視点1：アプローチの視点に基づいた、「組織的」で「つながり」（学びの連続性・学校内外の連携）をもった取組

重点教育目標

自分の考えをもち、豊かに表現し、高め合う子

A 各教科・領域等における系統性や、他の教科・領域等との関連に配慮する

B 長期的な見通しをもって、学習内容を確実に定着させる

C 校内研究の進め方を見直す

D 授業公開や外部への公開・発信を生かす

取組の概要

1 取組のきっかけ

ここ数年の全国学力・学習状況調査、CRT や市販テストの結果等から、本校においては、国語の「読むこと」や算数の「数量関係」に課題が見られた。

特に、目的に応じて文の概要を押さえたり、詳細な情報を得たりすること、百分率などの数量関係を理解し、数直線などに表したり、既習の学習と関連付けて考え表現したりすることが課題として挙げられた。

そこで、これらの課題を改善するために、上記の重点教育目標のもと、算数科を窓口の研究主題を「自ら進んで学びに取り組んでいける子の育成」とし、副主題を「学びだす力、学び続ける力を育てる指導の工夫」として、取組を行っている。

2 取組の位置付け

研究部が中心となり、学力向上に取り組んでいる。

3 取組の方法

(1) 日々の授業において、問題文から「わかっていること」や「問われていること」を読み取るとともに、図や絵、数直線などに表して整理する力を育てる。(キーワード、学年ごとの系統、発問、教材等を意識して)

(2) 学習常規を徹底する。

(3) 朝学習を週3回、朝の時間帯15分を利用し全学年一斉に取り組む。

(4) 家庭学習を習慣化する。家庭学習の目安は学年×10分。内容については低学年はプリントを活用し学習習慣の確立を図る。中学年においては宿題から自学ノートを活用した自主学習に取り組ませる。高学年においては、自ら立てた計画をもとに自主学習に取り組ませる。

(5) 読書活動を週2回、朝の時間帯15分を利用し全学年一斉に取り組む。

取組の成果と課題等

○ 取組の成果

- ・日々の授業において、問題文から「わかっていること」や「問われていること」を読み取るとともに、図や絵、数直線などに表して整理する力を育ててきた。(キーワード、学年ごとの系統、発問、教材等を意識して)
(成果) → 研究部と連携しながら、「自ら進んで学びに取り組んでいける子の育成」を目指したことで、問題や課題を的確にとらえ、既習事項を活用しながら解決の予想を立てたり、方法を考えたりする子が増えてきている。
- ・学習常規を徹底する。
(成果) → 学習常規を学年の発達段階に応じて適切に設定し、教室前に全学年掲示することで、日常的に意識化を図りつつ、学習に向かう姿勢を喚起することができた。
- ・朝学習を週3回、朝の時間帯15分を利用し全学年一斉に取り組む。
(成果) → 朝学習については、家庭学習とタイアップさせながら、学習習慣の確立と基礎学力の向上を図ることで、宿題に毎日確実に取り組んだり、計算能力が向上したりする傾向がみられた。
- ・家庭学習を習慣化する。家庭学習の目安は学年×10分。内容については低学年はプリントを活用し学習習慣の確立を図る。中学年においては宿題から自学ノートを活用した自主学習に取り組ませる。高学年においては、自ら立てた計画をもとに自主学習に取り組ませる。
(成果) → 低学年においてはプリント主体で行っているが、高学年においては自学ノートに復習や予習をやってくる児童が9割程に増え、学習の習慣化におけるある一定の成果が見られた。
- ・読書活動を週2回、朝の時間帯15分を利用し全学年一斉に取り組む。
(成果) → 落ち着いた環境で学習に取り組むこと、感性を育てることを目標に読書活動を設定したことで、全校的に読書量が増えたり、静かな雰囲気朝の会を迎えたりすることができた。

○ 教育課程検証の方法

- ・1月にチャレンジテスト“冬のトライやるウィーク、2月に2・4年生の学力検査を行う予定である。各教科平均8割となることを目標としている。
- ・学校評価において、児童、保護者、学校関係者の評価を行った結果を集計、グラフ化し、成果と次年度に向けた改善点を明らかにする。